

黒字なのに地下鉄民営化



大阪市営地下鉄の長堀鶴見緑地線・ドーム前千代崎駅

大阪 財界主導 橋下市長が条例案

80年の歴史を持ち市民の足として発展してきた大阪市営地下鉄。橋下徹市長は、その民営化と、市バスを廃止・民間売却する二つの条例案を市議会に提出、3月中の可決をねがっています。なぜ、いま民営化なのか。

豊田栄光記者

市営地下鉄は1933年の開業です。現在は9路線137・8キロで1日あたりの乗客数は228万人。2003年度から黒字を続け、11年度は167億円の利益をあげた、「超優良企業」です。最大2933億円の02年度あった累積赤字も、10年度には解消しました。公営地下鉄では全国でも初めて。未着工区間の完成など、利用者への

利益還元もこれからです。それを、橋下市長は15年4月に、強引に民営化しようとしています。その理由を市長は「倒産しない行政では（路線開発など）経営判断はできない」（2月26日の市議会交通水道委員会）などと強弁しますが、目的は市民の利便ではありません。維新の会の杉村幸太郎市議は「民営化後

は）不動産事業の強化をはかれ」（同委員会）と、市に要求しました。民営化を要求してきた関西財界の本音は「開発リスクは自治体、もうけは民間に」です。大阪商工会議所（大商）の「意見」（2月19日）はあけず

求めています。「新線や延伸が必要となる場合には、インフラ整備は公費で行うなど、大阪市・大阪府は鉄道会社の経営に過度な負担が生じないよう配慮されたい」

副社長を市の交通局長に起用。まさに「関西財界主導」で地下鉄の民営化を進めてきたのです。市民からは、黒字地下鉄の民営化に反対する請願や陳情が議会に多数寄せられています。



森脇さん

大商会頭は私鉄大手・京阪電鉄元社長の佐藤茂雄氏です。橋下市長は昨年4月、京阪電鉄の子会社・京福電鉄の藤本昌信

同区の最西端に位置する中島地域（人口4504人）の日本共産党支部。昨年9、10月に、地元市バス路線（42系統）の



来年3月末で廃止する方針の西淀川区中島を走る市バス

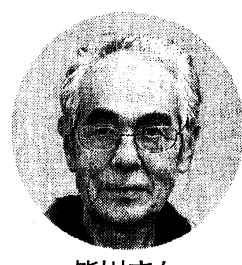
存続運動

地下鉄民営化と同時に進められているのが、赤字の市バス路線（全132系統）の廃止と民間売却です。

「西淀川区民の足を守る会」事務局長の皆川弘志さん（77）は憤ります。「5年後はどうなるのか。バス路線がなくなれば、区内を東西に移動できなくなります。住民の生活とまちづくりだ」

「赤バス」26路線は今年3月末で廃止。来年3月末には一般バス17路線を廃止し、残り89路線は民間に売却し、5年程度維持の協定書を選び、年間10

市議会で民営化条例案の可決には、出席議員の3分の2以上の賛成が必要です。皆川さんは話します。「黒字の地下鉄を売り払って、赤字の市バ



皆川さん

を生み出す地下鉄と、きめ細かく必要などころに走らせる市バス。これが市営で一体運営されてこそ、市民の足を守ることができるのです」

日本共産党の北山良三市議団長は強調します。「太い動脈として黒字